

発行所 社団法人 日本自動車工業会 モーターショー統括部  
〒100-0004 東京都千代田区大手町1丁目6番1号 大手町ビル

Publisher : Tokyo Motor Show Department, Japan Automobile Manufacturers Association, Inc.  
Otemachi Bldg., 1-6-1 Otemachi, Chiyoda-ku, Tokyo 100-0004, JAPAN

TEL 03-3211-8919 FAX 03-3211-5798 WEBSITE www.tokyo-motorshow.com

JAMA



月替わりの11月1日は朝方小雨のち曇り。連休始めの土曜日にしては出足は鈍かったが、次第に回復し会場は活気を取り戻していた。休日だけにベビーカーを押す若いカップル、子供連れファミリー、若者、女性、中高年まで多彩な層で賑わっていた。場内も各出品者の市販車や近く販売されるクルマに関心を持ち始めた来場者が増え、各ブースの係員の説明を聞いている姿を多く見かけるようになった。



# スモールカーの「未来像」をアピール

バイオリン演奏とともに新コミューター「ai」を紹介



ダイハツ工業の今回の統一テーマは「ワンダフル スモール 未来系」。「Fun、Eco、City、Life」と、それぞれのジャンルでの取り組みをステージごとにアピールするとともに、スモールカーの新しい価値と未来像を提案している。

東ホールの半分近くをトヨタグループが占めているが、隣接のトヨタ自動車とは2階にあるトヨタの環境技術展示コーナーに上がる緩やかなスロープで仕切られている。

今回はプレスブリーフィングを山田隆哉社長が単独で行ったり、スタジオミュージシャンによるバイオリン生演奏やブースデザインなど、共同展示方式をとりながら

も微かな変化をもたせている。ブースでは普通車サイズのモデルはトヨタに任せ、ダイハツは徹底的に軽自動車の枠にこだわったモデルで、小さなクルマでしか味わえない新しい価値を個性的な5台の参考出品車などを通じて提案。「小さなクルマのリーディングカンパニーを目指す」(山田社長)という意気込みが伝わってくる。



爽快なオープンエアクルーズを満喫させる「コペン サードスペシャル」



超低燃費を追求した「UFE-II」

## 超低燃費のスマートカー「UFE-II」に強い関心

中央通路近くの「コペン サードスペシャル」をはじめ、ステージごとに展示している参考出品車。このうち、技術的に最も注目度が高いのは、CO<sub>2</sub>の削減や排出ガスのクリーン化を狙って開発し、超低燃費を目指した「UFE-II」である。風洞実験を繰り返して徹底的に空気抵抗を削減、その度合いを示すCD値は航空機に近い0.19という優れた空力特性を持つ。これに660ccエンジンと電気モーターを組み合わせたハイブリッドシステムを搭載し、4人乗りであるにもかかわらず、10・15モード燃費でリッター60kmという数値を達成した。

このほか、2人乗りを基本に、後方に子供専用の小さいシートを設けた新コミューター「ai」、バギースタイルのデザインスタディのオープンスポーツ4WD「D-BONE」、軽サイズでの高級車作りを追求したスタイリッシュでエレガントなスマートセダン「XL-C」など、意欲的なコンセプトカーが並ぶ。

技術展示でも高出力、超低燃費、クリーンで次世代のスマートカーにふさわしい660cc直列2気筒直噴2サイクルディーゼルエンジン「TOPAZ 2CDDI」をはじめ、国内外から評価されている自己再生型触媒など、ダイハツの開発意欲の高さを主張しており、見応えは十分だ。



個性的なデザインのオープンスポーツ4WDの「D-BONE」



スタイリッシュでエレガントなスマートセダンの「XL-C」



## 進化した「オロチ」に熱い視線 光岡自動車

前回（第35回）の乗用車・二輪車ショーで初出展を果たした光岡自動車。今回は、光岡の「未来」と「現在」がテーマ。個性的なスタイリングの本格ミッドシップスポーツ「オロチ プロトタイプ」は、前回出品時から進化し、公道走行のための保安基準をクリアしての再登場だ。「ZERO 1（ゼロワン）コンセプト」は、公道を走るレーシングカーというイメージのオープンスポーツモデル。

また古典的スタイルの市販予定ラグジュアリーモデルの「ヌエラ」、「我流リムジン」、会場での展示車が最終生産車という「ビュート」、発売中の小型電気自動車「コンボイ88」も展示。前回に引き続き、中央ホールの光岡のブースはいつも通路いっぱいに来場者が溢れ、個性的な夢のある展示モデルに熱い視線が注がれている。



今回も夢のある展示モデルが人気の光岡ブース

### TOPICS

### CM大賞は「大事な人」



左から加藤理事、石倉氏、栗林氏、秋田氏、菰田氏

来場者が選ぶ「安全CMコンテスト」は10月31日投票が締め切られ、神奈川県川崎市の栗林武さんの作品「大事な人」がみごと「CM大賞」を獲得した。日本自動車工業会が第37回東京モーターショー交通安全イベントの一環として実施したものの、フェスティバルパーク特設ステージで表彰式が行われ、当会・加藤理事から賞金20万円が贈られた。

大切な人を事故で亡くしたという設定のもと結婚式や休日を楽しむ家族の写真などを使い、「ちょっとしたことで」「大事な人を」「悲しませるということを知っていますか」というスーパーを入れ、交通安全の大切さを訴えた内容。審査員の菰田潔氏（モータージャーナリスト）は、「あとからズキッとくる作品」と高く評価した。

第一次審査を通過した3作品の中から来場者が大賞作品1点を選ぶ投票が27日から特設ブースで行われていた。残る2作品は東京・目黒区の石倉名保人さんの「一日の終わりに」と東京・練馬区の秋田宗好さんの「家族で守る、交通安全。」で、お二人には加藤理事から準大賞としてデジタルカメラが贈られた。

## 高性能性を打ち出すドイツ各車

## 外国車展示ブース



### フルラインナップでブランド戦略を印象付け BMW / MINI

伝説の初代6シリーズの遺産と高級クーペの伝統を継承して14年ぶりに復活したニュー6シリーズ・クーペ「645Ci」を含め、BMWの4輪車ブースにはフルラインナップが展示されている。また、2003年のF1グランプリで常に上位を争った「BMW WilliamsF1 FW25」を特別展示、グループのMINIをブースの一角に配したグループ展示は華やかだ。

ニュー6シリーズ・クーペ「645Ci」は、7シリーズをベースとして専用デザインを採用。また、正面に据えられた参考出品の「ニューX3 3.0i」と市販モデル「ニューX5 4.4i」は、ダイナミックな走りを実現したSAV(スポーツ・アクティビティ・ビークル)で、BMWの「プレミアムブランド戦略」を印象付けている。

MINIは、2階のジョン・クーパーワークスに展示され、専用チューニングキットを装備した「MINI Cooper S John Cooper Works」が注目を浴びている。



「X5 4.4i」に続いて登場する「ニューX3 3.0i」



### 企業哲学に基づき革新的でスポーティな世界を表現 アウディ

アウディの展示ブースは、展示8台のうちフルタイム4WD(quattro)モデルを7台展示するなど、企業哲学である「技術による先進」に基づいたエモーショナルで洗練された、そして革新的でスポーティな世界を表現、独自ブランドを前面に打ち出している。

来場者の注目の的は「Audi A8 4.2 quattro」を含め3台などの参考出品車。なかでもフランクフルトモーターショーで初公開されたコンセプトカーの「Audi Le Mans quattro」には熱い視線が集中している。ル・マンで3年連続の優勝を勝ち取った「Audi R8」の遺伝子を受け継ぐハイパフォーマンス・スポーツカーで、V10直噴5.0リッターのバイターボエンジンは610馬力を発生する。「A8」と同様のアウディ・スペースフレームに乘せられたボディは力強さを強調した低くボリューム感のある曲線でまとめられ、全体にはコンパクト。全長は4370mmに抑えられた2シータースポーツカーだ。



「Audi R8」を彷彿とさせるシルエットの「Audi Le Mans quattro」



PORSCHE

### 圧倒的なパフォーマンスを2つのコーナーでアピール ポルシェ

ハイパフォーマンス・スポーツカーを象徴するポルシェのブースは、雰囲気二分され、「カレラGT」がイメージをリードするコーナーと、ポルシェの新レンジである「カイエン」(Cayenne)のコーナーは、いずれも甲乙をつけがたい。

ブースの前面に置かれた「カレラGT」。サブフレーム付き炭素繊維強化プラスチック素材のモノコックボディは見るからに“レーシングカー・ポルシェ”を感じさせる。V10・5.7リッターエンジンは612馬力を発生、最高速度は330km/hに達するという圧倒的なパフォーマンスだ。近く日本初上陸を果たす。

また、一方の「カイエン」は、ポルシェ開発のSUVとして昨年登場、ポルシェ初のV6・3.2リッターエンジンを搭載している。



日本初上陸を控え、来場者の関心を集める「カレラGT」



### オリジナルプロダクトの魅力と誇りを提供 BMWアルピナ

BMWをベースに「限定したユーザー」のために送り出されるBMWアルピナは、東京モーターショーに新型「BMWアルピナB7」シリーズと「BMWアルピナ ロードスポーツS」を展示している。このなかでフラッグシップが「BMWアルピナB7 スーパーチャージ」。バージョン名の「B7」はチャージドエンジンをあらわし、バルブトロニックをラジアルコンプレッサーによりチャージングするという初のシステムを採用、V8・4.4リッターで500馬力を発生するというハイパフォーマンス・リムジンになっている。



風格あふれる「BMWアルピナB7 スーパーチャージ」

## メカ・電気・水素で走るクルマの技術

(10月31日開催)



### ◆講演

【ベルト・チェーン・トロイダルCVTの技術】

田中 裕久氏 (横浜国立大学大学院工学研究院工学博士)

【ハイブリッド車輻(プリウス)の技術】

広瀬 雄彦氏

(トヨタ自動車パワートレーン本部パワートレーン企画室)

【トヨタの燃料電池自動車開発について】

河合 大洋氏 (トヨタ自動車FC開発本部FC企画室)

【燃料電池自動車への取り組み】

川口 祐治氏 (本田技術研究所和光基礎研究センター)

### ◆総司会

井手 徹氏 (富士重工業パワーユニット研究実験第3部)

シンポジウムでは、無段変速機、ハイブリッド車、燃料電池自動車という世界に誇る卓越した技術について、その開発秘話を交えなが

ら現在の技術水準が披露されるとともに普及に向けた提言が行われた。田中氏は「無段変速機は燃費と加速性を両立させる技術」と重要性を指摘。広瀬氏は「車が増え続ければ人類の生活に影響を及ぼすことになるが、ハイブリッド車はCO<sub>2</sub>の排出を抑え、車が悪役と後ろ指をさされなくなるもの」とし、普及拡大の必要性を説いた。

また河合氏は「低排気化と高効率を目指すため燃料電池車もハイブリッドとして開発する」とし、川口氏も「地球温暖化防止に役立てるには大量生産してインパクトを持たないと意味がない」とその課題を指摘した。



田中 裕久氏

## 交通安全 ～世界一安全な国をめざして～

(10月31日開催)



### ◆出席者

菰田 潔氏 (モータージャーナリスト)

北川 えり氏 (女優)

ミハエル・クルム氏 (レーシングドライバー)

### ◆司会

渡辺 人美氏

出演者それぞれがクルマへの熱い思いを語るアットホームな雰囲気の中で始まったシンポジウムは「死者数は減っているが、逆に事故件数や負傷者数は増えている」というデータが示されたことで、一転熱気を帯びた討論が展開された。

北川さんが教習所の教官をしていた頃に一番力を入れたのが「事前に危険を察知するシミュレーションであった」と披露すると、クルム氏は「ドイツの教習所では200km/hの速度や急ブレーキを体験

させる」と応じて日本とドイツの交通教育の違いを浮き彫りにさせると、参加者は興味津々、真剣に聴き入っていた。

菰田氏は国内で日常的に行われているハザードランプを使って行う挨拶や夜間信号待ちでのヘッドライトの消灯などは、「勘違いした交通マナーだ」として危険性を指摘、警鐘を鳴らした。

「クルマを運転する人が優しさをもって運転することが大切」と述べた北川さんの意見に全員が賛同、交通安全という身近な問題とあって講師と会場が一体となった討議が進められた。



ミハエル・クルム氏

## 今日のイベント (予定)

### ★ 白バイデモ

12:00~12:30 1回目デモ  
14:00~14:30 2回目デモ  
フェスティバルパーク (西休憩ゾーン)

### ★ トラフィック戦隊アンゼンジャーショー

11:00~11:30  
13:00~13:30  
16:00~16:30  
フェスティバルパーク (西休憩ゾーン)

### ★ クリーンエネルギー車同乗試乗会

10:30~16:30 環境体験ランド (幕張海浜公園)

## TOPICS

### モニターマン モーターショーに登場す サントリー

頭にモニターを載せたサントリーの「モニターマン」がモーターショー会場に初めてお目見え、来場者の注目を集めた。ご存知サントリーがことし7月デビューさせた動く媒体。モニターには「ペプシマン」「なっちゃん」「DAKARA」などのCMのほかモーターショー会場のイベント情報が次々に映し出される。スポンサーシップ・プログラムの参加企業で、今回、自動販売機を含め館内で販売あるいは提供される飲料の多くはサントリー製品。



タイ王国  
カシット・ピロム大使

11月1日の入場者数 **147,600人**

入場者数合計 **887,100人**

印刷物の価値を広げたい方は、ぜひアクセスしてみてください。

多品種時代にふさわしい小ロットへの対応にオンデマンド印刷は好適です。

DocuPlaza (ドキュプラザ) <http://www.docu-plaza.com/>

## Color DocuTech 60

機材協力：富士ゼロックス株式会社  
用紙協力：富士ゼロックスオフィスサプライ株式会社  
このニュースは「Color DocuTech 60」で、再生コート紙「eCOAT105」に出力しています。

